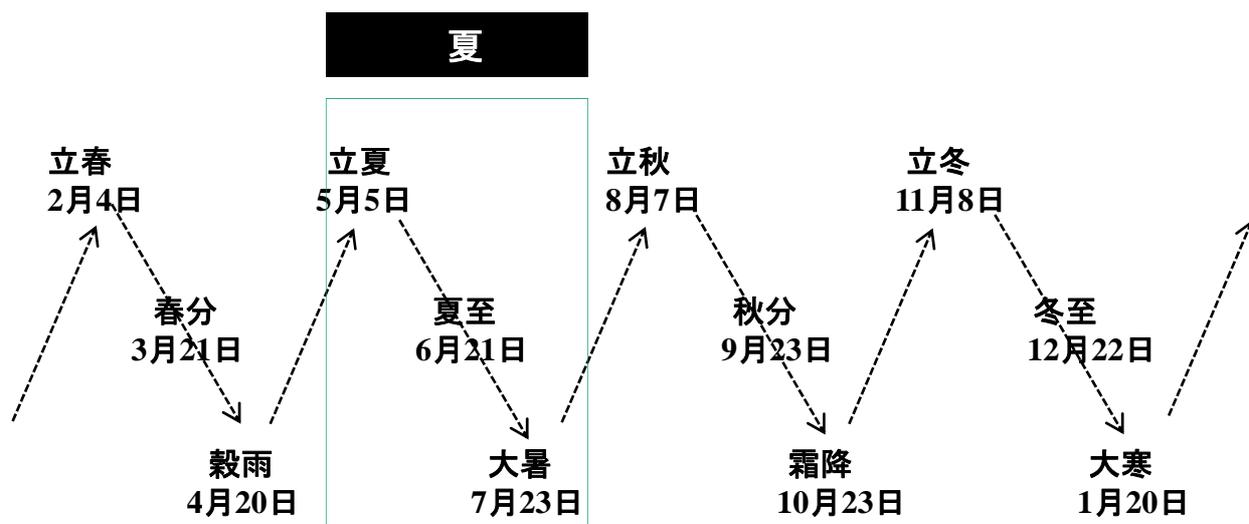


暑中見舞いと残暑見舞い

「暑中見舞い」は、猛暑期に普段なかなか会えない方やお世話になった方の健康を気遣い壮健に過ごして欲しいとの願いを届ける夏のあいさつ状です。近況報告などをかわす意味合いもあります。この習慣は、江戸時代に生まれたといわれています。その由来は、お盆に里帰りする際、直接、品を持参して祖先の霊に捧げていたことによります。江戸時代になると、お世話になっている人全般への贈答の習慣になっていきました。遠方で訪問できないお宅には、飛脚便を使って贈り物や書状を届けていました。

それが、明治6年の郵便制度の発達とともに、この贈答の習慣が簡素化されあいさつ状を送る習慣になっていき、大正時代に現在の「暑中見舞い」という形が定着しました



暦の上での夏の始まりは2017年5月5日の立夏、6月に梅雨があり、梅雨明け後(例年7月20日頃)、暑い夏が本番になり8月7日の立秋までが夏です。

立秋 2017年8月7日



暑中見舞いは二十四節気の「小暑(7月7日頃)」～「立秋の前日(8月6日頃)」にかけて送るのが通例です。

実際の暑さより暦が基準になります。

立秋の前日までに届かないようであれば、「残暑見舞い」として送りましょう。

残暑見舞いは「立秋(8月7日頃)」～8月末頃までに届くよう送りましょう。

遅くとも「処暑の候(9月6日頃まで)」に届くように送りましょう。